



グラウンドの銀杏

校長 山口 聡

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、埼玉県中学校新人体育大会の中止に伴い、さいたま市中学校新人体育大会も中止となりました。新規感染者数は減少の傾向にありますが、まだまだ注意が必要です。感染症予防の観点を重視した学校行事を工夫して行ってまいりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

桜木中学校のグラウンドの周りには多種の樹木が植えられています。桜木中学校75年の歴史を感じさせるものも多く、桜や藤の花などが季節ごとに学校を彩ってくれています。夏も終わって桜の葉が落ち、銀杏(イチョウ)の葉が色づき始める季節となりました。

理科の授業で、銀杏は針葉樹の仲間でも裸子植物であることなどを学びます。銀杏の実(ぎんなん)は食用にされ、茶碗蒸しの材料にもよく用いられています。食べ過ぎると中毒を起こすこともあり、「歳の数以上は食べてはいけない」との言い伝えも残っているそうです。



南館昇降口前の銀杏の木

銀杏は、学校や神社に植えられていることが多く、大きさや高さで有名な木も全国にたくさんあります。また、街路樹としてもたくさん植えられています。それは、銀杏が火災に強く、建物の延焼を防ぐ役割があることが理由の一つであると言われています。桜木中学校が建てられた場所は、もともと少し低く、水が出やすい土地でした。そのため、校舎は盛り土を行ってから建てられたそうです。校舎の前に植えられている銀杏はその盛り土の流出を防ぎ、校舎を火災から守り、暑い夏に涼しさを得られるようにといった様々な思いから植えられたものだと思います。現在は治水工事や防火の設備が進歩し、加えてエアコンなどの空調機器も備え付けられたため、銀杏の果たす役割は小さくなってきているかもしれません。また、葉や銀杏の実が落ち、においや清掃の大変さを感じることもあるかもしれません。けれども生徒の皆さんには銀杏の木が植えられた当時の桜木中学校への期待や思いを感じながら、学校生活を送ってほしいと思います。